

「生命のがん教育」を実施しました

(平成30年度1学期分)

平成30年度1学期は11校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20分)
- (2) がん経験者のお話 (20分)

◆授業風景



(京都市立山ノ内小学校)



(木津川市立木津中学校)



(京都府立園部高等学校)

◎小学校 (3校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
5月12日(土)	亀岡市立詳徳小学校	6年	京都中部総合医療センター 副院長 山岡 延樹
6月21日(木)	京都市立山ノ内小学校	6年	京都市立病院 総合外科 医長 久保田 恵子
6月29日(金)	井手町立井手小学校	6年	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 放射線治療科 部長 立入 誠司

<児童の感想>

- ☆ 一生の中で、「がん」などの病気で命などをおとすこともあるけど、その人たちもいっしょうけんめい生きていたんだと思います。ぼくももし「がん」になったら、あきらめずになおしたいと思いました。
- ☆ 今、「がん」じゃないけど病気でおじいさんが入院していて、今後おじいさんや家族に一言でも「がんばってね!」とか、家族の体が変わったら「いつか病院にいったら?」と言おうと思っています。
- ☆ 「がん」になったときに、自分だけじゃなく他の人の支えが大事で他の友達や家族とかにも助けられていることもあると聞いて、助け合いは大事だと改めて思いました。
- ☆ 小学校では先生が全て話していたけど、今回初めて実際に体験をされた方の話を聞いたので、とても貴重な時間になったなと感じました。

◎中学校 (3校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
-----	-----	----	-------

5月17日(木)	京都市立岡崎中学校	1年	京都大学医学部附属病院 腫瘍内科 船越 太郎
7月5日(木)	木津川市立木津中学校	3年	京都山城総合医療センター がん診療部長兼化学療法部長 小池 浩志
7月12日(木)	精華町立精華中学校	2年	社会医療法人岡本病院(財団)京都岡本記念病院 消化器内科部長兼内視鏡センター長 河端 秀明

<生徒の感想>

- ◇ 私は今まで「がん」ってよく聞いたことがあったけれど、自分や家族などには全然関係ないと思っていました。でも、今日の授業で何時なるか分からないし、自分や大切な人もなる可能性がある事を知って、気をつけようと思いました。家族や大切な人と「がん」について、また話したいなと思いました。
- ◇ 「がん」という病気は突然何の原因もないのにあらわれるものだと思っていたのですが、まさか日頃の生活習慣や行動で予防(なりにくく)することができるとは思いませんでした。また、健康診断などで早期発見ができれば治る可能性も大きくなることを知ったのでさっそく親にもすすめてみようと思います。
- ◇ 授業で分かったことは、健康が1番だということです。病気にかかったら家族などに迷惑をかけてしまうし、友達とも関われなくなるから、病気やけがはしてはいけないなと思った。多くのことを学んだ。
- ◇ 私の祖父が食道がんを患ったことがあり、自分の体験の記憶とご家族の気持ちがよく分かりました。祖父の原因はたばこ飲酒です。まさに病院の先生がおっしゃっていたままでした。生活習慣を正しくしていれば、極力防ぐことはできたかなと思いました。

◎高等学校(5校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
5月9日(水)	京都府立園部高等学校	2年	社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院 副院長 岸 信之
6月6日(水)	京都府立久美浜高等学校	1年	京都府立医科大学附属北部医療センター 消化器内科 医長 堅田 和弘
6月11日(月)	京都廣学館高等学校	1年	京都府立医科大学附属病院 消化器内科 森口 理久
6月27日(水)	京都市立紫野高等学校	1年	独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター 副院長 柴 禄郎
7月9日(月)	京都市立白河総合支援学校	1年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 瀬古 裕也

<生徒の感想>

- ◇ 自分にはまだ先の話だと思っていて、母も父も祖母も元気だから、まだ大丈夫だろうとしか考えていなかったけど、もしかしたら明日倒れちゃうかも知れない。その時私は何ができるのか考えさせられました。
- ◇ 僕たちは今でも「がん」や病気にかかることがあるので若いうちから塩分をとりすぎないことや、たばこをすわないなど意識していきたいです。また、しっかり運動などをして体を動かしていきたいし、定期的に病院でみてもらったりしてがん予防をしていきたいです。時間を大切にすることは大事だと思います。年をとるごとに体や体力もおとろえていくし、病気になりやすくなるので今のうちにしたいことをたくさんしていきたいし、もし病気になってもあきらめずどうすれば治るかなど前向きな気持ちで過ごしたいです。
- ◇ 今日の授業を通して自分なりに考えたことは、周りのことや人にも気を使ったり、環境作り、それに生活習慣病くらいなら、自分でも対処できるのではないかと考えました。今日の話で、「がん」が身近にある事を再認識し、とても危険ということが分かりました。

- ◇ 「がん」になんかまだならない。と他人事のように思っている今、2人に1人がなるというデータを見てとても驚きました。それと同時に家族のことなどを考えると他人事ではないなと思いました。喫煙しないことや、食生活に気をつけるなどをして予防する努力をしつつ、早期発見ができるように検診することや、家族に検診を勧めることをしたいです。実際に病気を経験した方の話にはやはり説得力がありました。どんなに強いショックがあっても前向きに！という言葉は印象的でした。常に前を向いて頑張れば乗り越えられることを心に留めておきたいです。
- ◇ この話を聞くと、家族がどんなに大切な存在なのか分かりました。私も家族や知り合い、未来では仕事の人たちとも仲良く接し、1日を大切に過ごせるように心がけます。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp